市報とおかまち
平成18年（2006）July　第31号
TOKAMACHI
7.10

だんだん

咲きました こころの花

「2年前ここに立ったとき今の風景が心に見えて、『できた!』って声に出していました。だからこの作品は作ったんじゃなくて生まれたんです」。大地の芸術祭作品「こころの花ーあの頃へ」（P7参照）の作者菊池歩さんは、3万本のビーズの花を中平の人たちといっしょに咲かせました。

主な内容

［特集］
- 芸術祭を支える・楽しむ 2-9
- 大地の芸術祭　深発見!! …… 10-13
- 総合計画基本構想② …… 14
- 第12回石彫シンポジウム …… 15
- 国民健康保険税率を改定しました … 24

愛称「だんだん」は、方言のあいさつ「だんだんどうも」、「河岸段丘・棚田」、「ステップアップ」などを表しています。

特集 芸術祭を支える・楽しむ

にいがたサポーターズ会議

いよいよ７月23日㈰から第３回大地の芸術祭「越後妻有アートトリエンナーレ2006」が始まります。この催しは、作家と地域の人たちの協働はもとより、圏域外の多くの人たちの支えがあって成り立っています。第１回から大きな力となった主に首都圏の若者で組織する「こへび隊」が代表的なものですが、今回は、主に在京の文化人・財界人で組織する「大へび隊」や、新潟市在住の人たちなどで組織する「にいがたサポーターズ会議」の皆さんも熱心に支援活動を続けています。

これらの動きや、作家とともに作品制作にかかわる地域の動きを紹介します。

芸術祭を支える――①
自然体でいこう にいがたサポーターズ会議

目標２万枚

「やっぱり口コミだよ。プレイガイドをあてにしたらダメ」「知ってる人が売りに行かなきゃ。わざわざ買いにいかないからね」「買ってください、そのかわりパスポートをあげますというアプローチも」…。

６月15日㈭夜、万代島ビル（新潟市）の一室で開かれた「大地の芸術祭にいがたサポーターズ会議（小川弘幸代表）」の定例会では、大地の芸術祭のパスポートをどうやって売るのかという課題に意見が飛び交っていました。

同会議が掲げた新潟県内での販売目標は２万枚で、この日参加した約20人は、当面分として一人20枚のパスポートを受け取りました。

「ほんとに売れるの？」「無理！」というような否定的な意見はありません。かといってピリピリした雰囲気ではなく、「とにかくやってみようよ」という、ごく自然な空気が会を包んでいます。

新潟市も地元

大地の芸術祭を県内のファンの立場で応援していこうと「にいがたサポーターズ会議」（以下「会議」）が立ち上がったのは昨年11月。メンバーは新潟市を中心に県内各地の約１００人で、団体役員、学生、主婦、公務員、会社員など職種・年齢層もバラエティに富んでいます。

毎月第１・第３木曜日に定例会を持ち、事業や支援内容を検討するとともに、事前見学ツアーや説明会などを催して芸術祭の理解・周知に努めています。

事務局として会議の運営を担う和田一良さん（新潟市・44歳）は、「第１回の芸術祭からかかわっています。この魅力的な催しをもっと県内の人たちから知ってもらいたいと、組織として活動することになりました。口コミでメンバーが広がっています」と、会議発足のいきさつを語ります。

会議の代表で文化事業を企画・運営するＮＰＯ法人の代表でもある小川弘幸さん（新潟市・44歳）は、芸術祭の魅力と会議の存在意義について次のように語ります。

「芸術祭を新潟市という少し離れたところから見ると、スケールも内容も雄大で、とてもうらやましい催しに映ります。アートと地域が密接につながるこのようなイベントは他にないもの。誇りを持って世界に発信できるでしょう。現代アートには好き嫌いがあって当然。批判も大事です。ただ、どうせかかわるなら自主的・主体的にかかわった方が視野が広がります。考えてみれば、新潟県は開催県、そういう意味で地元ですから私たちもできるだけのことはやりたいと思います。新潟市を中心にもっと多くの人たちから芸術祭を知ってもらうために、最新情報の受発信を続けていきます。こういう会はもっと前からあってもよかったのかもしれませんね」。

口コミが仲間を広げる

数年前から松之山地域の棚田の支援活動に参加している小見まいこさん（新潟市・24歳）は、「松之山は第二のふるさとです。新潟市の若い人たちに『芸術祭ってすごいんだよ』って伝えています。それがけっこう広がっていくので、口コミの面白さを実感しています。仲間づくりとまちづくりをいろんな形で体験できるこのお祭りに、参加しなきゃ損ですよ」と、活動そのものをしっかり楽しんでいます。

化粧品販売会社に勤める長井綾子さん（新潟市・30歳）は、「たまたま立ち寄った『光の館』で芸術祭のことを知り、こへび隊に入りました。できるだけ現地に行って作品制作にもかかわりたいと思います。ただ、パスポート20枚（を売るの）は、どうしよう！って感じです（笑）」と、ちょっぴり本音も…。

親子がハマる芸術祭

この日のもう一つの議題の柱は、「県内の全小・中学生、高校生30万人を無料招待する」ことをどう周知するか。検討の結果、パスポート引換書を兼ねたチラシを、県内９３６の全小・中学校、高校に発送することになりました。

印刷会社に勤める担当の田沢孝さん（新発田市・45歳）は、「前回の芸術祭は見学者として参加するだけでしたが、今回は具体的にかかわることができるので、やりがいがあります」と、張り切ります。

会議に親子で参加している西村裕美子さん（新潟市・40歳）は、「３年前、子ども２人と毎週末妻有に通い、作品めぐりやワークショップを楽しみました。もう、親子でハマったって感じです。だから、この会のことを知ったときはまっ先に手をあげました。芸術祭は、ファミリーでスタンプラリーを楽しめるのが最大の魅力です。全部スタンプが押されたパスポートはわが家の宝です（笑）」と、親子で芸術祭を楽しむ秘けつも披露してくれました。

メンバーそれぞれがはっきりした目的意識を持ち、さりとて気負い過ぎることもなく自然体で活動を続ける「にいがたサポーターズ会議」の存在は、芸術祭の新しい広がりを予感させてくれます。会期中に見かけたら、気軽に声をかけてみましょう。「ありがとう」「よろしくね」と。

まつだい農舞台で行われた「大地の芸術祭2006現地集会」で（６月22日㈭）

芸術祭を支える――②

こへび隊　今、わたしたちにできることを精一杯

こへび隊は、大地の芸術祭を支えるサポートスタッフです。

メンバーには、大学生や大学院生が多く、社会人も所属しています。今回の大地の芸術祭に向け、500人が登録していて、昨年秋から多くのメンバーが市内各地で活動を続けています。

「世界的に名を馳せているこの芸術祭を成功させたい」「地域や人との交流を通して、様々に社会を学びたい」。それぞれ思い思いの希望を抱き、持ち前の特技を生かしながら若いパワーを発揮している、こへび隊の活動現場を取材しました

地域とアートのつなぎ役

5月から毎週末、首都圏に住むこへび隊員を乗せた「こへびバス」が市内に着きます。メンバーは、学校や勤務先の休日に十日町市・津南町を訪れて、芸術祭の開催に向けた地道な活動を繰り広げています。

こへび隊の活動は多岐にわたります。今年新たに設置される約２００点の作品制作サポートや補修はもとより、ワークショップやイベントの準備、通訳・ガイドなど様々です。芸術祭の作品は、この地域の歴史や文化をもとに造形化されています。今回も46の国と地域の作家が参加していて、こへび隊はそのテーマとなる素材集めや地域とのコンタクトなど地域とアート、人と人とをつなぐ大切な役割を担っています。

地域の支えはずみに

蓬平集落（松代）の特産センターで、集落の人たちとともに約1万匹のカイコを育てている大木彩子さんは、２００３年の芸術祭からこへび隊として活躍しています。今回は、作家・古巻和芳さんの作品「繭の家―養蚕プロジェクト」に使われる、繭を採るための養蚕と空家の改修に追われています。

「蓬平では、15年くらい前まで養蚕が行われていました。こうして手を掛けていると、かわいく思えてきます」と大木さん。食欲旺盛なカイコたちは、毎日50kgの桑の葉を平らげます。同じ隊員の重石麗子さんとともに6月の1か月間、日に4～5回えさを与え続けました。「山桑を採りに連れてってくれたり、気温に敏感なカイコのために、肌寒い夜にはストーブをたいてくれたり、集落の皆さんが面倒をみてくれるんです。本当に感激です」。カイコを介した集落との協働の姿が作品作りに生かされています。

＊　＊　＊

学校町1丁目の家庭を、1軒1軒打合せに回っているのは渡辺美和子さん。作家・原高史さんの作品「十日町の窓-窓から発するそれぞれの声」で、カラーボードやロールブラインドに描く、人々のメッセージを確認するためです。

「地域の人たちの言葉から、生きた歴史や文化の温もりを感じるんです。聞き入ると、つい長居をしてしまいます」。町内からは、全戸で作品を作ろうという気概を感じると話す渡辺さん。「地域の協力がないとできない作品です。目的を共有しあえているようでうれしいです」。親しみのある会話は町内に溶け込んでいます。

集めたメッセージは、通りの民家の約８００枚の窓に飾られます。

将来に後悔したくないから

松代城山中腹にあり、周囲の棚田を見下ろすようにたたずむ「棚守る竜神の御座」（作家・國安孝昌さん）。２、５００本の間伐材と約４０、０００個のレンガブロックで、竜がとぐろを巻くように直径約20ｍに組み上げられているこの作品は、その壮大な構想から、２０００年の第1回大地の芸術祭で人気を呼びました。

6年もの間、雨雪に耐え、朽ちるのも自然のままに、疲労の影を落とした竜神。特に2年続きの豪雪は重くのしかかりました。「こういうときだから、もう一度立ち上げたいんです」。震災や豪雪に打ち勝つ、この地域の復興のシンボルとして再起させようと孤軍奮闘、崩れた間伐材を撤去する國安さん。

そんな國安さんの姿に感銘を受けたメンバーの加藤初美さんは、「新潟の雪は半端じゃないですね。自然は厳しいってよく分かります」。20kgはある折れた木材を抱える細い腕がきしむようです。「力仕事は得意ではありません。でも、この作品の神秘性に触れられる実感が湧いてきます」。作品作りに接することで、その良さを知ることができるという加藤さん。「将来後悔しないために、今、精一杯打ち込みたいんです」。木の皮のかけらと汗にまみれた顔から笑みがこぼれました。

越後妻有はふるさと

大地の芸術祭は、760㎢のエリアという壮大なスケールで展開する一方で、自然との共生をめざした一つの挑戦でもあります。これまで3年ごとに2回の芸術祭が開催され、地域とともに芸術祭を支えてきたこへび隊には、ここが自分の思い出の詰まったふるさとだと思いを寄せています。

特に、おととしの中越地震や度重なる豪雪は、芸術祭未開催年にもこへび隊を越後妻有へと足を運ばせました。震災ボランティアとして、物資の運搬や家屋の修復・清掃と十日町を中心に延べ40日間にわたり約250人が復興の作業に当たりました。また、19年ぶりの豪雪となった今冬には、毎週末にバスで乗り入れ、延べ約100人の隊員が一人暮らしの高齢者宅や空家での雪下ろし作業を行いました。

損壊した納屋を解体するこへび隊

＊　＊　＊

「私たちこへび隊を引きつけるもの、それは芸術祭での様々な活動や地域との交流で育まれた「融和」なんです。共に災害を乗り越えよう、そして芸術祭を楽しもう、そんなこへび隊員と地域の人たち一人ひとりの思いが集まって、大きな力になるんだと思います」と、こへび隊合宿リーダーの谷上望さんは話します。

今回の芸術祭では、十日町市・津南町の約50の地区や集落で作品が展示されます。開催に向けては、膨大な手間と知識、技術など様々な力が必要で、それをつなぎ合わせた果実が、地域の魅力となって多くの来訪者を招き入れることにつながります。

「地域の祭を世界の祭に！」。こへび隊の夢はふくらみます。開催間近の今、地域のどこかでこへび隊は活動を続けています。

大地の芸術祭2006 現地集会

地域へ参加と協働を呼びかけ

芸術祭開催を1か月後にひかえた6月22日㈭、まつだい農舞台で市民やこへび隊、にいがたサポーターズ会議の皆さんなどを集めた現地集会が行われました。

この集会では、地元での芸術祭ムードを高めるために、作品制作、運営、イベントなどのプロジェクトの紹介と、併せて芸術祭をともに楽しむための地元サポーターの募集も行われました。すでに現地で作品制作に当たっている作家やボランティア団体などが、それぞれの魅力について説明すると、会場に集まった約200人の参加者から大きな拍手が送られていました。

会を主催した芸術祭総合ディレクターの北川フラムさんは、「作品点数やイベントなどの総数300を超えるこの芸術祭は、世界に例のない史上空前の規模です。諸外国や首都圏から期待も日に日に高まっています」と手ごたえのほどを話しました。また、各地域で活躍する10団体の紹介も行われ、川西地域のベリーハウスで作家とともに作品制作に当たっている押木敦子さんは、「十日町の魅力を内外に向けてお伝えするのは楽しいです。みんなで楽しく盛り上げましょう！」と会場の参加者に協力を呼びかけました。

サポーター募集

まつだい農舞台では、芸術祭の運営サポーターを募集しています。作品制作やイベントの開催など、得意な分野での協力をお待ちしてします。

問い合わせ・申し込みは、まつだい農舞台まで。

☎025-595-6180 FAX025-595-6181

芸術祭を楽しむ❶ ― 中平 ―

3万本の花 思いはひとつ

作品制作中の菊池歩さん

中平集落に芸術祭作品「こころの花ーあの頃へ」が完成しました（表紙）。青を基調にした無数のビーズの花は、作家と集落が一体となって咲かせ（制作し）ました。前からここにあったかのように、初夏のブナ林に溶け込んでいます。

ここから見上げた空が浮かんだ

―作品との運命的出会い―

朝5時半、朝もやが立ち込める中、中平集落の中心にあるブナ林に朝日が差し込みます。カサッ、カサッと落ち葉を踏みしめながら林の中を注意深く歩く人がいます。尾身博人さん（中平・52歳）です。

「風が吹いた翌朝は、よく枯れ枝が花の上に落ちているんですよ」。

林の中一面に、透き通るような淡いブルーの花が咲いています。アーティスト菊池歩さんと集落の人たちが2年がかりで制作した3万本のビーズの花です。尾見さんは毎朝ここに来て花の手入れをしているのです。

「木の真下の花が倒れていることもよくあります」。

――どうして？

「夜、リスやモモンガが幹を伝って降りたときに乗っかっちゃうからですよ。目下のところ動物たちが天敵です（笑）」。

尾見さんは、中平の区長だった2年前、ワークショップで菊池さんの作品制作を手伝うことになってから、ずっとサポートを続けています。

「『空・木・土』という作品のコンセプトを聞いたとき、ここから見上げた空がまっ先に思い浮かび、うちのムラにぴったりだと思いました。仕事でビーズも扱っています」。作品とは運命的な出会いだったようです。

「試作品の小さなビーズの花を見たときに、正直言って『モノになるのかな』と思いました。出来てみると…やっぱりすごいですね。みんな感激しています」。尾身さんの言葉を裏付けるかのように、一人、また一人とムラの人たちが集まって来ます。

作家の菊池歩さんは、「中平の皆さんに支えられてここまできました。ビーズを通してくれた人、花を運んでくれた人、蚊取り線香を届けてくれた人（笑）、みんなの心が働いています」とほほ笑みます。

「7月22日㈯にはここで前夜祭をします。ライトアップも計画しているんですが、どうやろうかな…」。尾身さんの目はさらに輝きました。

この夏、中平はこれまでにない新しい季節を迎えます。

尾身フミさん（70歳）

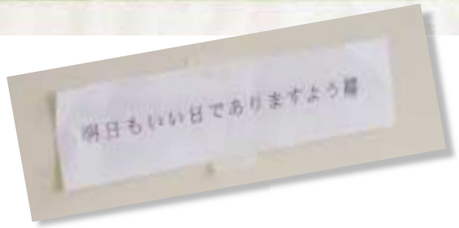
びっくりしました。こういう花の挿し方もあるんですね。自分たちが針金にビーズを通したものが、こんなに素晴らしくなるなんて、感激です。菊池さんはとても気さくで礼儀正しい人。ムラの敬老会ではいっしょに踊ってくれました。

尾身ふみえさん（57歳）

ステキです！ブナ林もこんな花に囲まれると別世界みたいになるんですね。特に、夕陽が差すと光がいろいろに輝いてとてもきれいです。小鳥も喜んでいるんですよ。こんなアートに自分もかかわることができて幸せです。

芸術祭を楽しむ ❷ ― 川西高校 ―

パッセージ ベンチに刻む思い



今年、創立30周年を迎えた県立川西高等学校（村田幹夫校長）では、作家と生徒が協力して作品制作が進められました。

学校入口のバス待合所に72脚・60mのFRP製ベンチを設置し、それぞれの背もたれに、かかわった人たちの言葉を刻む「パッセージ」という作品。生徒自身と家族、周囲の環境などが密接に結びついて選ばれた言葉は、訪れた人にも何かを語りかけてくれそうです。

生徒が作る BUS STOP

県立川西高等学校（以下「川西高校」）入口には「川西高校前BUS STOP」と看板が掲げられたバス待合所があります。平成12年度に同校の生徒のアイデアを取り入れて整備されたもので、看板は生徒の手作り。管理も生徒が行っています。昨年、向かい側にもバス待合所が整備され、その両わきに「パッセージ」は配置されます。

6月19日(月)、川西高校では、美術教科を選択した2年生35人が午前・午後の授業に分かれて作品制作に取り組んでいました。

作家足高寛美さん（26歳）の指導のもと、生徒本人の記憶・経験やかかわりのある人からのメッセージの中から選んだ言葉を、一定の大きさに印刷します。文字は活字として一般的な明朝体。印刷面の裏側に鉛筆でカーボンを付け、ベンチの背もたれの上に置いて言葉の上を赤のボールペンでなぞって文字を写します。何で赤ボールペンかって？黒ボールペンだとなぞった部分が分からなくなるからです。そして写した言葉をリューターという電動彫り器で彫り込んでいきます。作業としてはこれだけですが、言葉選びと彫り込み作業にはかなりの時間とエネルギーを要します。

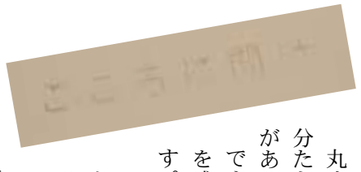
自分を感じるベンチ

「生徒が生活の中で感じた言葉をバス停のベンチに刻むことで、ただ乗って降りるだけの空白な時間から、そのときどきの自分を感じる時間に変わって行くと思います。訪れた人にも同じような経験をしてもらうために、人に投げかける言葉を探してもらいました。だから言葉選びには時間をかけました」と足高さん。

びゅー、りゅーというベンチに言葉を刻む音の中、生徒たちは鉛筆で紙をこすったりボールペンで文字をなぞったり…黙々と作業を続けます。

――楽しい？

「楽しいですよ。振動でぶれて難しいけど、バス停に一生残るものなので、ていねいにやってます。言葉は『だいじょうぶ』です」。と大窪貴文さんはリューターを握り直します。



丸山雅人さんも、「楽しいし、自分たちが使うものなのでやりがいがありますよ。『川西高校はどうですか』のベンチに座って川高を感じてほしい」と張り切ります。

「『こころに聞け』。これはおれの格言です」と宣言するのは宮澤和也さん。

久保田結子さんは、受験に合格した人や何かを達成した人のために『おめでとう』をだれよりも早く仕上げました。

未来の楽しみ

放課後になると美術部に所属する生徒（9人）が集まって来ました。みんな慣れた手付きで作業を始めます。

1年生の上村俊充さんは、「後に残るものなのでうれしい反面、気合いを入れないとヤバイす。見る人の心に何かを残したい」と、『おはよう』を削る手に力を込めます。

部長の俵山幸恵さん（2年）は、「最初、『高校生が芸術祭の作品制作に参加していいのかな』と思いましたが、やってみたら『こういう作品もあるんだ！』と視野が広がりました」と、既成の枠にとらわれない作品との出会いに新鮮な衝撃を受けたようです。そして、「置いて終わる作品ではなく、使って生きていく作品だと思います。卒業して何年か後に里帰りしたとき、また新しい発見があると思います。未来の楽しみです」と窓の外に目を向けます。そんな俵山さんが選んだ言葉は、『幼いころ見上げた空はどんな色だった？』。

同校美術担当非常勤講師の北村フミ子さん（57歳）は、「生徒たちが意欲的に取り組んでくれてありがたいです。私もすごく刺激を受けています。新鮮です（笑）」と満足そうです。

生徒も協働制作者

村田校長は、「足高さんは『何を彫るか』に時間をかけてくれました。生徒たちの考える力を引き出そうとしてくれたんだと思います。だから頭で考えたのではなく心の底からの言葉が出ていると思います。この過程も作品なんだなと分かりました。『これが何になる』という声は聞きません。生徒たちに、作家と協働制作者なんだという思いがあるからでしょう。前からあるバス待合所と同様、歴代の生徒たちが受け継いでくれると思います。これを機会に、ほかの作品や活動にも感心を持ってくれるのでは」と、成果の広がりに期待を寄せます。

一つひとつに深い響きのある言葉が刻まれたベンチが置かれ、生徒が誇りと愛着を持てるバス停がまた一つ完成します。一生の思い出と人生の目標は、こんなところから生まれるのかもしれません。

芸術祭の作品は、目に見えるカタチを刻むだけではなく、人の心に新しい夢を刻んでいきます。

足高さんの言葉は？「ナイショです。ベンチで見つけてください」

会期
2006 7.23sun－9.10sun

芸術祭を楽しむための必需品
「ガイドマップ」「ガイドブック」発売開始

第３回大地の芸術祭のガイドマップとガイドブックを発行しました。設置する全作品の内容や各イベントの詳細のほか、案内所の情報、各種ツアー・現地交通なども掲載しています。ガイドマップは持ち運びしやすい概要版で、ガイドブックは詳細な情報を満載しています。

芸術祭をより深く知りさらに楽しむために、ぜひ活用してください。

〈掲載内容〉

①ガイドマップ
- 作品の地域別一覧と位置図　●案内所・各問合せ先
- イベントカレンダー　●交通案内　など

②ガイドブック（ガイドマップの内容のほか）
- 作品・イベントの概要解説　●公式グッズの案内
- 飲食・宿泊・温泉施設の情報　●作家や地域の人たちの紹介　など

〈販売価格（税込）〉

①ガイドマップ　100円　②ガイドブック　1,200円

〈販売場所〉

●広域事務組合（消防署３階）　●市役所、各支所・公民館　●インフォメーションセンター（キナーレ、農舞台、キョロロなど）※会期中のみ

※ガイドブックは市内書店でも販売しています。
※ガイドマップは市内全世帯に一部ずつ配布するほか、案内表示をした市内の施設でも取り扱います。

●問合せ先　広域事務組合企画振興課☎025(757)2637

松之山地域

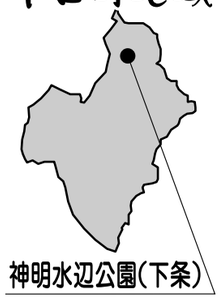
「棚田弁当」〈大成哲雄：日本〉

松之山地域は、周囲を山々に囲まれた、四季折々の美しい表情を楽しめる憩いのふるさとです。この自然豊かな松之山の財産の一つ「棚田」は、日本の原風景とも言われ多くの人を引き付けます。

作家の大成哲雄さんは、松之山地域の上鰕池集落にある田んぼを測量し、20分の1～50分の1のサイズに縮小した、棚田の形をした弁当箱を制作します。

棚田の形は様々で、これを自然と共生するこの地の人々の象徴ととらえ、題材に選びました。弁当箱は漆製、陶器製の２種類があり、地域で採れた米、野菜をつめて「棚田弁当」として会期中毎日、「キョロロ食文化体験工房」で食べることができます。「棚田弁当」で日本一の米を賞味してください。

十日町地域



CAWC
（チャイルド・アート・ワークショップ・カンパニー）
ワークショップ参加者募集のお知らせ

『お茶箱・色図鑑プロジェクト』
（茂木一司・群馬大学教育学部助教授）

日時：８月16日㈬・17日㈭午後１時～４時
内容：トンネルと茶室の不思議な場所を作り、そこでお茶会を開催します。
対象：小・中学生で両日とも参加できる人 15人程度
作業場所：サンクロス十日町

『なりきりえまきin越後妻有』
（下原美保・鹿児島大学教育学部助教授）

日時：8月19日㈯午前10時～午後４時
内容：デジカメで撮影した越後妻有の風景を背景にし、自分が登場人物となって簡単な絵巻作りを行うワークショップ
対象：一般の人20名程度（３～４人×５グループ）家族やグループでの参加をお待ちしています。１人での参加も可能です。
作業場所：サンクロス十日町

ワークショップの問合せ・申込みは
総合政策課　企画政策係☎757-3111（232）
申込み締切り：８月11日㈮

第３回芸術祭前夜祭
震災復興祈願　妻有観世能公演

フランスを代表する国際的建築家ドミニク・ペロー設計による舞台のこけら落とし公演として、妻有地域の震災復興を祈念した狂言と能を上演します。

日時：7月22日㈯午後６時開演（開場５時30分）
会場：神明水辺公園「バタフライパビリオン」（下条）
※雨天の場合はクロス10
料金：Ｓ席7,200円（当日8,000円）
Ａ席5,400円（当日6,000円）
Ｂ席4,000円（当日4,500円）
チケット販売：キナーレ・農舞台・キョロロほか

川西地域

「祈りの船」（元町）〈鈴木淳子＋沖啓介：日本〉

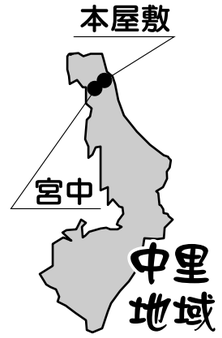
川西産コシヒカリの稲（いな）わらで巨大な宝船を作るという、なんともおめでたい作品が、元町の諏訪神社に設置されます。船には地元の人たち直伝のわら細工が飾られるということで、仕上がりが楽しみです。

「ライス・アース～大地の米～」（野口）〈塩澤徳子：日本〉

こちらも川西産コシヒカリを使った作品です。米で世界地図＝大地を作り、芸術祭をとおしてこの地が誇る「米」のすばらしさを世界に伝えます。米は地元の人から提供してもらい、展示後は加工食品として生まれ変わります。

「ようこそ仙田農村公園へ」（中仙田）〈関　直美：日本〉

仙田体験交流館のつり橋を渡ると目の前に何本もの足がついた巨大な植木鉢が現れます。鉢にはアロエが植えられており、それを支える足は楽しそうに踊っているかのよう。見る人に元気を与える作品となっています。



「Floating Bamboo」（本屋敷）

〈中澤克巳：日本〉

中澤さんは本屋敷慈眼寺裏の杉とブナが茂る林の中に竹垣を使った作品を作ります。「杉林の中を歩きながら、人と自然との関係が融和していく、そんな瞬間を感じられる場所にしたい」と中澤さんは作品に思いを込めます。上下左右にうねり、そして浮遊する竹垣は、人と自然、内側と外側といった概念もあいまいにしようとするねらいがあります。

「光の巣」（宮中）

〈前田光彦：日本〉

環境と共存する作品を制作している前田さんは、宮中集落のブナ林の中に「光の巣」を作ります。

三本のブナの木を利用し、地上7mのところへドーム状に竹筒を組み合わせ、内側から外の光を感じとることで、知識としての情報より、身体的知覚を持って「知る」作品です。「森や木、風や光を含めたすべての環境がとても重要。この森と出会えたのは幸福なこと」と話す前田さん。作品に行き着くまでの森の整備は宮中集落のみなさんが行っています。前田さんは、毎週末金曜日から日曜日にかけて作品を制作しています。

「土の音―まつだい」

〈渡辺泰幸：日本〉

渡辺さんは第2回大地の芸術祭で、土市集落の皆さんとのワークショップにより、土の音具「土の音」を制作しました。この音具は、陶製のだ円型の打楽器で、穴の数や大きさで音の高低を調整します。

今回の芸術祭では、前回と同様に土市集落と、新たに松代南部地区（小屋丸・池之畑・松代下山・松代東山・海老）で、音具の「土の音―まつだい」を制作します。

南部地区で作る音具は、50㎝ほどの米の形をしたものです。5月から各集落で2回のワークショップを行い、作る人の様々な思いが込められた300個の「土の音」を制作しました。6月18日(日)には、農舞台入り口の芝生広場に音具を焼く窯も完成し、7月初めから随時焼成されています。作品から発する透き通った音色で涼味をお楽しみください。

また、8月20日(日)に農舞台で、完成した「土の音」を使った演奏会が予定されています。詳しくは農舞台まで（☎595―6180）

わくわく芸術祭 3

芸術祭開催まで、あと10日あまり。市内の各団体・事業所では公式グッズの販売に向け、製造に追われています。

芸術祭の期間中、スタッフとして活躍するこへび隊などのサポーターは約800人。そのユニフォームとして、統一されたデザインのTシャツが作られました。作家のデザインに十日町織物工業協同組合、そして縫製の技術と、まさに地域のパワーを結集した製品として、芸術祭の発信力に勢いを加えます。

芸術祭オリジナル きものTシャツ

Tシャツは5色でS・M・Lの3サイズあります。こへび隊のスタッフユニフォームのほかに一般販売も行います。

暑い夏にも作業性・ファッション性にすぐれ、かつ繰り返し洗濯ができる実用的なものをと、作家の久保美沙登さんがデザインしました。

何より、きものの街十日町をイメージした「和」を基調にしていることが特徴です。ベースは化繊のTシャツですが、袖に十日町産の「絹のきもの」を2つのボタンで取り付けるデザインになっています。この絹のきものは十日町織物工業協同組合が協力していて、地場色を打ち出した製品になっています。また、胸元に縫われた襟の合わせが、一層和服へのこだわりを強めています。

このTシャツは「cross clothe KT」とタグが付けられていて、芸術祭を象徴する協働やネットワークの意味が込められています。人と人、技と技それぞれが交わりながら、ユニフォームとしての形を成し、芸術祭の彩りになります。

縫製を手がけた㈲アンジェロ（千歳町）の田村恭子さんは、「遊び心の中に地域のこだわりを持った楽しい試みだと思います。久保さんは、いろいろ検討を重ね、このデザインに落ち着きました。こへび隊の皆さんの活躍とともに、十日町のきものがPRされるとうれしいです」と期待を込めました。

このTシャツを基調にした、久保さんの作品がキナーレに展示され、訪れた鑑賞者を楽しませてくれます。

レポート アートの汗

ちょっとした作家気分で作品づくり

東田尻大地のグルグル実行委員会会長
清滝信一（49歳　東田尻）

東田尻は、集落内の川原の田んぼに、作家の芝裕子さんといっしょに「大地のグルグル」という作品を作っています。これは、わらでできた渦巻状のトンネル？です。東田尻は、かあちゃんたち、わけ～しょ、じぃちゃんばぁちゃん、みんなして「やるときはやる！」人たちばかりです。そんなみんなの意気込みを結集して、芝さんの作品づくりをサポートしています。

芝さんとは昨年から交流していて、稲刈りやわら細工体験など、作業をとおして楽しむ雰囲気が出来上がりました。雪解けからはいよいよ作品作りに取りかかりました。骨組みを建て、それにわらを編み込む作業を現在も続けています。芝さんが「こうしたい」という言葉に、私たちは「ああしたらどうだ」「こうしたらおもしろい」と注文を付けて、どちらが作家だか分からないほど意見を言い合って作品作りを進めています。ちょっとした作家気分で参加しています。

十日町市総合計画
基本構想を策定しました 2

今回は、総合計画の基本的な考え方、目標となる「基本理念」、「将来の姿」をお知らせします。

【まちづくりの基本理念】

まちづくりの基本理念は、まちづくりを進めていく上で、行政と市民一人ひとりがそれぞれの立場で大切にしなければならない考え方、まちづくりの姿勢、心構えを示したものです。

『夢を耕しつづける 感動と創造のまちづくり』
―自立した市民の知恵と協働―

市の将来の姿（＝夢）を明快に描き、行政と市民がその実現に向けて行動し続ける（＝耕し続ける）まちづくりを進めます。

「感動」は心の豊かさや生きる活力、やさしさ、夢などを人々に与えるものです。「感動」をまちづくりの原動力とし、新しい個性や価値を「創造」していきます。

これからのまちづくりは、行政や市民が自立するとともに、それぞれが持つ知恵や能力を互いに生かす必要があります。「みんなでやるべきことはみんなで」、「地域でできることは地域で」という地域内分権の考え方のもと、行政と市民の役割分担を明確にした上で、行政と市民または市民同士の「協働」の場を作り、市民自身による個性ある地域づくりを進めます。

【将来の姿】

将来の姿は、基本構想の最終年度である平成27年度の市の将来像、人口を中心とした将来の指標などをまとめたものです。

●市の将来像

『雪・自然・農が織りなす 温もりと躍動のまち』

●将来の指標

・定住人口

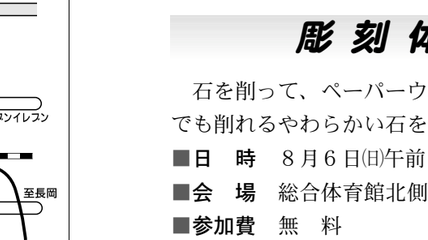
平成27年における市の定住人口は、国立社会保障・人口問題研究所の推計によると54、529人となりますが、地方定住志向の拡大に合わせた受け入れ体制の整備や産業振興、少子化対策などの定住促進策を積極的に行うことで、平成27年の定住人口を55、500人と想定しました。

・交流人口

観光や地域振興による交流人口の拡大が、地域の新たな活力源として期待されています。豊かな自然や伝統文化に代表される地域資源を十分に生かし、他地域に誇れるまちづくりを目指すことで、交流人口の増大を図ります。

観光入込客数、他市町村からの通学・通勤者数の合計を交流人口と定義し、現在年間200万人の交流人口を平成27年には年間300万人に増加させることを目指します。

次号では、市の将来像を実現するための分野別の5つの基本目標についてお知らせします。



■問合せ　総合政策課企画政策係　☎757―3111（内線229）

第12回 十日町石彫シンポジウム

◆期　間　7月29日(土)～8月20日(日)

◆制作会場　十日町市総合体育館北側広場

◆参加作家　宮城島隆夫（みやぎしまたかお）　吉村貴子（よしむらたかこ）　内山士郎（うちやましろう）

◆作品名
「ふたり」

◆制作者
宮城島隆夫

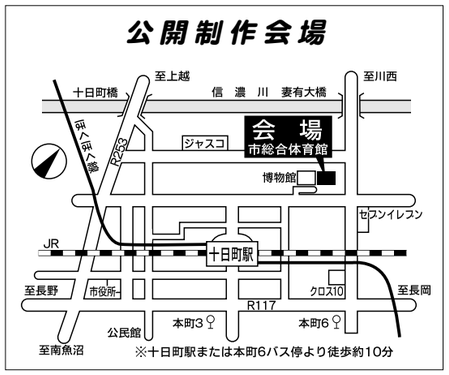
◆設置場所
旧十商西脇ビル前（本町2）

◆作品名
「霧降る間」

◆制作者
内山士郎

◆設置場所
プラザ・コア前（本町3）

◆作品名　「芽ぶきのうた」
◆制作者　吉村貴子
◆設置場所　㈱萩谷商店前（駅通り）



彫刻体験教室

石を削って、ペーパーウエイトを作ろう。石は、子どもでも削れるやわらかい石を使用します。

■日　時　8月6日(日)午前9時30分～（2時間程度）
■会　場　総合体育館北側広場（石彫シンポジウム会場）
■参加費　無　料
■申込み締切り　8月3日(木)

申込み・問合せ　教育委員会生涯学習課（中央公民館内）☎757-8918

湯米心まつのやま

松之山支所
☎596-3131

真夏の笑い祭（フェスティバル）典

薪（たきぎ）のある狂言

出演・野村万作
野村萬斎

松之山地域の夏の風物詩「薪のある狂言」は、今年で開催10周年を迎えます。今回の演目は、「貫賀（もういむこ）」と「二人大名」です。この夏、松之山・山の上の能楽堂で狂言界の至宝の演技をたん能してみませんか。

日　時
8月12日㈯午後7時開演
〔午後6時30分開場〕

会　場
松之山・山の上の能楽堂

前売入場券（全席指定）
SS席：7、000円
S　席：5、000円
A　席：3、500円

※高校生以下は各1、000円引き
※当日売りは各500円増し

申込み・問合せ先　真夏の笑い祭典実行委員会　☎596―3760

市道浦田松之山線のバイパス完成

浦田松之山線のバイパス風景

6月23日㈮、市道浦田松之山線の松之山バイパスが完成し、しゅん工式が行われました。バイパスは松之山交差点から松之山小学校入口までの延長800mで、平成12年度から緊急地方道市町村道代行事業として新潟県が改良工事を進めてきました。現在の市道は幅員が狭く、急カーブ、急勾配が続き、安全な交通確保に支障を来していました。バイパスは、市道の南側を大きくう回し住宅地から離れたため、冬期間の除雪作業もスムーズに行えるようになりました。また、国道353号と接続する松之山交差点は広く見通しが良くなり、松之山中心街にふさわしい通りとなりました。しゅん工式には、地元住民も参加しバイパスの完成を喜んでいました。

松之山方面隊が消防機動演習

6月25日㈰、実際の火災を想定した消防団松之山方面隊の演習が行われました。この日は、旧東川小学校体育館と松之山自然休養村センター付近の林野の2か所を出火地点として想定し、総指揮者丸山明公さんの「ただいま出火。直ちに出動し、火災を鎮圧せよ」の伝達で訓練が開始されました。防災無線のサイレンの合図で分団が出動し、団員の機敏な動作で次々とホースを延長。各分団のポンプによる中継送水が行われ、「放水はじめ」の指示で見事に放水となりました。演習の最後に保坂久美夫方面隊長は「松之山地域は無火災が続いています。1日でも長く無火災が続くように、団員の皆さんの協力をお願いします」と火災予防を呼びかけていました。

旧東川小学校での演習風景

かわにし新聞

川西支所
☎768-3111

健康づくり講演会を開催

6月12日㈪、千手中央コミュニティセンター千年の森ホールで、「いかにして寝たきり・認知症にならずに年を重ねられるか」をテーマとした健康づくり講演会が開かれ、約200人が参加しました。

講師は、明治学院大学名誉教授高橋賢一氏で、10年前から川西地域で行っている「寝たきりゼロのまち」運動の中で、65歳以上の高齢者を対象とした水中体操の指導をしています。

高橋さんは、「これからはアイソトリック（動的トレーニング）と呼ばれる筋肉の伸縮によって効果を得る方法（バーベルを持ち上げたりするような運動）ではなく、アイソメトリック（静的トレーニング）と呼ばれる、ある動きのまま静止して筋力を維持する方法（胸の前で両方の手のひらを合せて強く押し合ったり、両手を上に広げてタオルを引っ張り合ったりするなどの動作で、鍛えたい筋肉が全力で収縮した状態を6秒間×数回続ける運動）で、寝たきりになることを効果的に防げます。また、右手と左手が違う動作をしたり足で色々な動作をしたりすることで脳の働きを活発にする体操も認知症の予防には効果的です。むやみに筋力トレーニングをしても効果は出ないので、アイソメトリックトレーニングや脳を活発にする体操を継続して実践してほしいです」と語り、参加者といっしょに特定の筋肉を鍛えるトレーニングや脳を活発にする体操を行いました。

高橋先生の指導を受けアイソメトリックを実践

「千手温泉 千年の湯」が公共建築賞優秀賞を受賞

千手温泉　千年の湯

6月13日㈫、第10回公共建築賞（㈳公共建築協会主催）の第1次審査が行われ、「千手温泉・千年の湯」が全国167施設の応募の中から2次審査の対象となる優秀賞31施設（北陸地区では3施設）に選ばれました。

公共建築賞は、優れた公共建築を表彰することにより、公共建築の総合的水準の向上に寄与することを目的としています。設計・施工が優れていることのみでなく、地域社会への貢献や施設の管理・保全といった視点からも評価され、そのためしゅん工後3年以上経過した施設が対象とされています。

9月下旬に予定されている第2次審査では、行政施設部門・文化施設部門・生活施設部門の3部門ごとに、最も優れた建築物各1点が選定されることになっています。

橘ドラゴンズ野球大会で健闘

6月10日㈯、庚塚（かねづか）野球場で、「中越地区スポーツ少年団軟式野球交流大会川西地区予選大会」が開かれ、橘ドラゴンズ（橘小学校）が優勝しました。橘ドラゴンズは、17日㈯に十日町河川敷野球場で開催された「十日町・津南地区大会」でも準優勝を果たし、24日㈯に行われた「中越地区大会」では、1回戦で長岡市のチームと対戦。善戦したものの、力及ばず8対11と惜敗しましたが、子どもたちの健闘に応援席からは大きな拍手が送られていました。

橘ドラゴンズ

あいどるキャッチ

13

佐藤ひなた ちゃん　さとう　ひなたちゃん
平成15年12月16日生まれ
新座4-2

何がなくてもアンパンマン。中でもメロンパンナちゃんがお気に入りです。お外で遊んだり、水遊びをしたりするのが大好きなひなちゃんは、保育園でのプール遊びが今からとても楽しみです。

高橋　匠 ちゃん　たかはし　たくみちゃん
平成14年4月21日生まれ
天水島

戦いごっこが好きなたっちゃん。かっこいいウルトラマンメビウスが大好きです。保育園ではおにごっこやかくれんぼをして遊ぶとっても元気なたっちゃんは、今年２月にお兄ちゃんになりました。

元気予報

じょうずなお医者さんのかかり方

かかりつけ医（ホームドクター）を持ちましょう

かかりつけ医とは、普段の健康管理や病気の初期治療、さらには大病院での検査・治療を必要とするかの助言や紹介をしてくれる、身近にいるお医者さんのことです。医療に関する最初の相談役としてかかりつけ医を持ち、日ごろから健康診断の結果やほかの医療機関での治療のことなどの情報を提供し受診するなど、健康管理に心がけましょう。また、医療機関の受診体制が整っている診療時間内に受診しましょう。

お子さんの急な病気で困ったときは電話相談を活用しましょう

県では、「休日夜間小児救急医療電話相談」を行っています。相談料は無料で、看護師が対応します。また、必要に応じて医師によるアドバイスを受けることもできます。

【開設時間】
土・日・祝日および年末年始
午後7時～午後10時

【電話番号】
０２５－２８８－２５２５または#８０００（プッシュ回線専用）

問合せ　健康支援課成人保健係 TEL757-3111（内線126）

市のホームページをご利用ください

市のホームページ「便利なページ」の中で「子どもの救急」（日本小児科学会サイト）を見ることができます。生後1か月から6歳までの気になる症状について、アドバイスが受けられます。（http://www.city.tokamachi.niigata.jp/）

●お●知●ら●せ●

市報「だんだん」５月25日号の中で、「４月から禁煙治療に医療保険が使えるようになりました」とお知らせしましたが、保険が適用になるには、「喫煙年数×１日の本数＝200本以上」であることや、一定の施設基準を満たしている医療機関であることなどの要件があります。

詳しいことは、医療機関に相談してください。

ときめきネットワーク ⑬

先月の富澤妙子さんからバトンタッチ。

清水紀孝さん
1975年生まれ
割烹田町屋勤務

美味しいもので幸せを味わってほしい

実家が和食の飲食店だったので、あえて違うジャンルをと、東京の調理師学校で洋食を勉強しました。卒業後フランス料理店で４年、洋食屋で２年働きました。小さい店だったのでなんでもやりましたが、主にオードブルとデザートを担当していました。料理に対して絶対に妥協しない店だったので、すごく勉強になりましたね。ほんとはもう少し東京で勉強したかったんですが、いずれは帰って来るつもりでいたし、父が体調を崩したのをきっかけに、24歳のときに帰って来て、家業を手伝い始めました。

得意なのはパイ料理です。生地から作り、バターを包みのばして折って層を作っていきます。デザートから魚や肉を使ったメーンディッシュまで、料理の幅は広いです。お客さんからの希望があれば、パイ料理を作って出すこともあります。

店に来てくれた人たちが、「おいしかった」はもちろんですが、「楽しかった」って言ってくれたときが1番うれしいですね。料理人って、人を幸せにする商売だと思うんです。幸せを味わいたくて、ここ中里までわざわざ足を運んでも食べに来てくれる、そんなお店にできたらなあ…と思っています。

光ケーブルネットワークで地域が変わる VOL.3

◆問合せ◆
総合政策課
情報政策係
☎757-3111
（内線233）

情報化アクションプラン（活動計画）の策定に着手

■情報化アクションプラン

情報化アクションプランは、地域イントラネット事業で敷設した光ケーブルを各家庭まで伸ばし、高速インターネットやＣＡＴＶ（ケーブルテレビ）サービスを行うための具体的な考え方を取りまとめる活動計画書です。その中にはインターネットなどの各種サービスを行うために必要な基盤（光ケーブルや放送施設など）整備の方法やサービス内容などのほか、運営主体・運用開始後の収支計画・料金・全体事業費・整備の年次計画などが取りまとめられることになります。

■庁内組織とあわせ情報化推進会議を設置

アクションプランを策定するため、６月１日㈭付けで市役所内に市長を委員長とする「情報化庁内推進委員会」を設置しました。委員会は「本部委員会」と５つの「部会」に分かれ、現在「部会」においてサービス内容の検討などが行われています。検討された内容は、「本部委員会」で協議され、市の方針として決定されます。

また、公募委員13人を含む市内の各界各層の人たちで構成する「地域情報化推進会議」のメンバーが決まり、７月14日㈮に第１回会議を開催することになりました。推進会議では、市が示すアクションプランの内容について協議・検討し、さまざまな意見を交換する予定です。

情報化庁内推進委員会庁内電子化部会

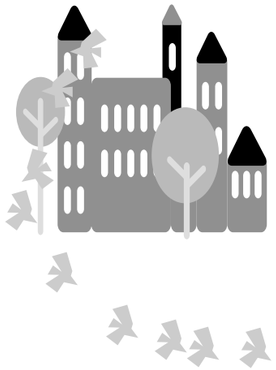
■今後のスケジュール

順調に作業が進むと、９月末ころにはアクションプランが完成します。その後は、アクションプランに基づく市民説明会を開催し、インターネット・ＣＡＴＶサービスへの加入促進を図るとともに、基盤（光ケーブル敷設）整備を進めます。

※次回は、第１回情報化推進会議の内容についてお知らせします。

市消防団で初の女性消防団員が誕生！

７月２日㈰、十日町地域消防本部で女性消防団員の辞令交付式が行われ、採用が決まっている14人の内10人が辞令の交付を受けました。女性の消防団入団により、「女性の特性・感性を生かせる活動」を積極的に取り入れ、住民への防火指導や、高齢者住宅への訪問など心の支援活動の効果が期待されています。現在女性消防団員は、県内では新潟市など20市町村で約350人、全国では13,000人以上が活躍しており、関係機関では今後10万人確保を目標としています。この日は辞令交付の後、３年前に女性消防団を発足した見附市消防団稲田裕子副部長による活動状況などの講演が行われ、参加者は真剣に聞き入っていました。



まちの話題 TOWN TOPICS

このコーナーは、まちの話題や活動などを紹介しています。情報がありましたら、総務課広報広聴係（☎757−3111内線213）へ、お気軽にお寄せください。

食べ物を育てる苦労が分かった…けど

６月22日㈭・23日㈮の２日間、新潟市に今年開校した国際調理製菓専門学校の生徒が、市内川西地域の水田と畑で草取り作業などを体験しました。これは、「食材の生産現場を知ろう。本物に触れよう」という同校の食育実習プログラムの一環で行われたもので、男性26人、女性17人の合わせて43人が参加しました。

新潟市の高橋裕介さん（18歳）は、初めて体験した有機栽培の田んぼでの「田の草取り」の感想を、「農家の苦労が良く分かりました。…ほんとは腰が痛くてもうやりたくないです」と正直に語ってくれました。

江戸時代の災害復興

７月２日㈰、情報館で十日町市郷土資料双書解説講演会「地すべりに挑んだ村人たち」が開催され、約70人が集まりました。講師の丸山克巳さん（十日町市文化財保護審議委員）は、江戸時代後期に飛渡地区で頻発した大規模な地すべりについて、当時の古文書を解読し、村人たちと行政の動きを紹介。災害の規模や復旧工事の技術や費用、災害によって引き起こされた村の内紛、それでも村を再建しようとした思いなどについて話しました。

第25回記念　十日町小唄日本一優勝大会

７月２日㈰、クロス10で「第25回記念大会　十日町小唄日本一優勝大会」が開催され、県内外から122人の声自慢が競い合いました。

25回を記念した今大会では、前日の１日㈯に、前夜祭として「歴代十日町小唄日本一優勝者大競演会」も開催され、会場を埋めた延べ約900人の聴衆は民謡づくしの２日間を楽しみました。

今回の優勝大会から、年齢別の３部門と総合優勝で審査が行われました。少年少女の部では3年連続の大口かんなさん（津南町）、60歳未満の部は草野美好さん（新潟市）、60歳以上の部は中浜妙子さん（東京都豊島区）がそれぞれ部門優勝を果たしました。総合優勝は草野美好さんが栄冠を手にし、日本一のたすきが掛けられました。

海外青年協力隊に滝沢さん

ＪＩＣＡ（独立行政法人国際協力機構）の平成18年度青年海外協力隊の派遣隊員として、滝沢祥子さん（24歳　四日町）が７月６日㈭、任国のザンビアに向けて出発しました。青年海外協力隊は、主に開発途上国との人の交流をとおし、互いの知識や経験を生かしながら平和で豊かな世界の実現をめざすもので、昭和40年から続けられています。滝沢さんは、「任地では、元気な子どもたちに負けないくらい頑張ります」と任務の青少年育成活動に意欲を燃やしていました。

キャンドルナイト at 松代

電気を消して、スローな夜を

夏至の６月21日前後にかけて、全国各地で「100万人のキャンドルナイト」が行われました。この運動は、省エネの啓発と、キャンドルのゆったりとしたともしびの中で、家族や平和そして今のライフスタイルについて考えようというイベントです。この運動に共感した奥平百合さん（松代）の呼びかけで６月17日㈯、まつだい農舞台を会場に約100人が幻想的な夜を楽しみました。午後２時から始まったイベントでは、紙袋を使ったキャンドルシェード作りやアロマテラピー・ヨガ教室などが行われ、日没になるとキャンドルの灯りの中で、セネガル人デュオによる太鼓演奏会も行われました。

魚津市が防災特番取材で来市

６月30日㈮、富山県魚津市の情報・広報担当者４人が市を訪れ、中越大震災の発生状況と対応などについて田口市長にインタビューしました。

昭和31年に1、５００世帯を焼失する大火があった魚津市では、50年目の今年、記念事業として防災を特集する広報紙と特別番組（ＣＡＴＶ）を制作中で、取材対象として災害時相互応援協定を結んでいる当市を訪れたもの。内容は、９月９日㈯に同市で開催される記念式典で披露される予定です。

アルビレックス新潟 トレーニングキャンプ

サッカーＪ１アルビレックス新潟のトレーニングキャンプが、６月26日(月)～７月２日(日)に当間高原で行われました。初めての来市となった鈴木監督は、「良い環境でしっかりトレーニングをして力をつけ、後半22試合で更に良い成績を残したい」とキャンプにかける抱負を語りました。

26日(月)にベルナティオ別館前で行われた歓迎セレモニーで、ホテル従業員から花束を受け取る鈴木淳監督と海本慶治選手

1日(土)に行われた「ふれあいサッカー」では、市内外の小学生など161人が参加し、選手とミニゲームなどを楽しみました

市役所フォ～カス ㉖

ぼくんちここだよ

ここは市役所本庁正面玄関わき。大きな案内地図が２種類あります。一つは広域案内でもう一つは市街地案内。市街地案内は、現在地と中心市街地の町名・主要な施設が、「見ている方向に合わせて」表示されています。中心市街地活性化のための国の助成事業で整備しているもので、市外から訪れた人を「やさしく案内」することを目指しています。これと同規模のものが５か所、周辺案内表示が６か所、案内標柱が９か所、中心市街地に整備されます。どこにあるか見つけて歩くのもいいかも。

伝統工芸きもの＆帯結び展

日本の伝統工芸きもの＆帯結び展が、キナーしきもの歴史館で７月18日(火)まで開催されています。70点に及ぶ着物と帯は、すべてきものの集いの会の会員が所有しているもので、会員の花島ゆみ子さんの手により、現代的に着付け（帯留め、衣紋、襟合わせ）されました。ほかにも人間国宝の玉名覇有公氏、羽田登喜男氏による名古屋帯をはじめ、重要無形文化財９点のほか、塩沢で生産された400万円の越後上布や久米島紺、琉球紅型などが展示されました。訪れた人たちは一つひとつの作品をじっくり鑑賞して、伝統工芸の巧みさに感心していました。

熱戦ほくほく沿線バレー

６月18日(日)、松代総合体育館と松代中学校を会場に、第10回ほくほく線沿線市町村婦人バレーボール大会が行われました。この大会は、平成９年にほくほく線が開通したのを記念し、沿線市町村の婦人バレーボールの交流を目的として始められました。今回も、沿線のバレーボールチーム12組約１５０人が参加して熱戦を繰り広げました。結果は、六日町クラブが優勝を飾り、イオナーズ（塩沢）が準優勝となりました。

バスケットチーム十日町ママ全国大会へ

第20回新潟県家庭婦人バスケットボール交歓大会が、６月４日(日)小千谷市で開催されました。大会では、決勝戦で黒崎アクエリアスと対戦し、接戦の末、54対47で見事初優勝を飾りました。７月28日(金)から茨城県水戸市で開催される全国ママさん大会に、県の代表として出場します。

チーム十日町ママのキャプテンの富井由美さんは、「今まで何度も県大会には出場し挑戦してきましたが、ようやく優勝することができました。職場や地域の皆さん、何より家族の理解があったからこそと思い、本当に感謝しています。全国大会では、１つでも多く試合ができるように頑張ってきます」と優勝の喜びを話していました。

いろんな遊びを体験！

６月25日(日)、市民体育館で震災復興事業として「子どもの遊びのひろば」（新潟県子ども会連絡協議会主催）が開催されました。会場では、上・中・下越地区の子ども会から、紙粘土細工やペーパークラフトなど工夫を凝らした遊びが用意され、訪れた約２５０人の親子が体験しました。中でも１８、０００個の積み木で遊ぶコーナーは大人気。子どもたちは高層ビルを作ったりピラミッドを作ったりして遊び、用意された積み木を使い切るまで熱中していました。

県交通安全子ども自転車大会 川治小学校準優勝！

６月24日(土)、新潟市で第40回交通安全こども自転車新潟県大会が開催され、市内から川治小学校が参加しました。この大会は、自転車の正しい乗り方の競技を通じ、交通安全知識及び技能を身に付け交通事故を防止することを目的に毎年開催されているものです。競技は団体戦・個人戦に分かれ学科テストと実技テスト（安全走行・技能走行）で競い合います。今回35回目の出場となった川治小学校チームは、団体戦では参加９チーム中惜しくも準優勝でしたが、個人戦では６年生の高橋裕さんが見事優勝に輝きました。

平成18年度国民健康保険税率を改定しました

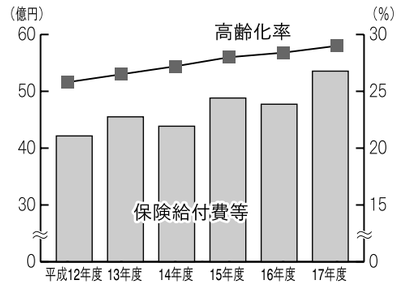
高齢化や高度医療の進展による医療費の増加の中で、国民健康保険事業の健全な運営を維持するため、18年度の国民健康保険税率を改定しました。

「国民健康保険」は、病気やけがをしたとき安心して医療を受けることができるよう保険税を出し合い助け合う制度です。加入者の皆さんのご理解とご協力をお願いします。

40歳から64歳までの人が加入している場合は、介護保険の第2号被保険者として介護納付金分を合わせた額が国民健康保険税となります。

保険税の納入通知書は、7月中旬に発送する予定です。納期限までの納入をお願いします。

高齢化率と保険給付費等の推移



医療分税率

区分	18年度	17年度
所得割率	6.2%	6.0%
資産割率	27%	27%
均等割額	24,000円	23,000円
平等割額	23,000円	22,000円
限度額	530,000円	530,000円

介護分税率

区分	18年度	17年度
所得割率	1.0%	0.9%
均等割額	8,000円	7,800円
限度額	90,000円	80,000円

保険税の計算例（医療分）

★世帯の中の国保加入者……2人
★営業所得……150万円
★固定資産税額（土地・家屋）……45,000円
①所得割
（150万円－基礎控除33万円）×6.2%＝72,540円
②資産割　45,000円×27%＝12,150円
③均等割　2人×24,000円＝48,000円
④平等割　23,000円

A　合計（①＋②＋③＋④）＝155,600円
（100円未満切捨て）

保険税の計算例（介護分）

★世帯の中の国保加入者……2人
★営業所得……150万円
①所得割
（150万円－基礎控除33万円）×1.0%＝11,700円
②均等割　2人×8,000円＝16,000円

B　合計（①＋②）＝27,700円
（100円未満切捨て）

世帯の国保税の合計＝A＋B＝183,300円

国民健康保険証と高齢受給者証の更新について

国民健康保険証と高齢受給者証（該当者のみ）の更新分を世帯単位で郵送します。学生の保険証も市内の家族あてに郵送します。発送は7月26日㈬の予定です。

今までの保険証と高齢受給者証は7月31日で使えなくなりますので、各家庭で裁断し破棄してください。

保険証が届いたら、住所・世帯主名・加入者名などを確認し、裏面の注意事項をよく読んでください。記載事項に誤りがある場合は、届け出てください。

問合せ　保険年金課国保係　☎757-3111（内線165）

GUIDE
お知らせ・ガイド
市役所 TEL 757-3111

GUIDE 催し講座

ナカゴグリーンパーク第2回十日町市長杯パターゴルフ大会

越後三山を眺めながらパターゴルフを楽しみませんか。●**日時**＝7月22日㈯午前7時15分～●**会場**＝ナカゴグリーンパーク●**定員**＝先着100人●**参加費**＝2、000円（プレー・軽食代）●**申込み・問合せ**＝7月17日（海の日）までに、参加費を添えて申込書をサンパレスナカゴ（ナカゴグリーンパーク内☎768－4419）に提出

千手観音十七夜祭り

大倉修吾さんを迎え、歌手の蘭燃さんの歌謡ショーや露店・花火大会があります。●**日時**＝7月16日㈰午後7時15分～●**会場**＝千手観音（伊友）●**問合せ**＝川西観光協会（☎768－4951）

金融相談会

国民生活金融公庫、丸経資金、市・県制度融資など、夏期決済資金や賞与等運転資金及び設備資金の相談を受け付けます。●**日時**＝7月18日㈫午前10時～午後6時●**会場**＝十日町商工会議所●**持参するもの**＝過去2期分の決算書・申告書、直近の試算表、印鑑●**申込み・問合せ**＝前日までに、十日町商工会議所（駅前）（☎757－5111）

第27回新潟県工芸会展十日町展

県内トップクラスの工芸作家が参加している団体の展覧会です。●**日時**＝7月21日㈮～23日㈰午前9時～午後5時（最終日は午後4時まで）●**会場**＝クロス10●**問合せ**＝中央公民館（☎757－5011）

三好園しんざ夕涼み会

●**日時**＝7月22日㈯午後6時30分～8時●**会場**＝三好園しんざ●**内容**＝大太鼓、踊り、夜店、花火など●**問合せ**＝ケアセンター三好園しんざ（☎752－7670）

三好園納涼大会

●**日時**＝7月29日㈯午後6時～8時●**会場**＝三好園園庭●**内容**＝夜店、盆踊り、花火など●**問合せ**＝特別養護老人ホーム三好園（☎756－2106）

十日町軽スポーツクラブ納涼盆踊りの集い

ひと足早く、盆踊りを楽しみましょう。●**日時**＝7月26日㈬午後1時～3時●**会場**＝市民体育館●**参加費**＝無料●**問合せ**＝十日町軽スポーツクラブ田口（☎752－2683）

平成18年度 屋外広告物講習会

屋外広告業を営む人は、県の条例により営業所ごとに屋外広告物講習会修了者など一定の資格者を1人以上置かなければなりません。●**日時**＝8月30日㈬～31日㈭●**会場**＝県警察庁舎●**受講手数料**＝3、500円（県収入証紙）●**テキスト代**＝6、600円（当日販売）●**定員**＝先着200人●**申込み・問合せ**＝8月18日㈮までに所定の受講申込書（申込先へ配置）を十日町地域振興局地域整備部（☎757－5522）または県都市政策課（☎025－280－5427）

平成18年度 博物館講座　災害の歴史から郷土を学ぶ

郷土を襲った災害について学びます。突然襲う災害に、郷土の人々はどう対処したのでしょう。取り上げるテーマは、地すべり・大火・地震です。

●**会　場**＝博物館　●**講義時間**＝各回とも午後1時30分～3時30分
●**受講料**＝無　料　●**申込み**＝7月20日㈭までに、博物館に申込書を提出

		期日	講師	タイトル・内容
3回シリーズ	1回目	7月29日㈯	村山悦夫先生（松之山教育事務所社会教育指導員）	松之山の地すべり ～大地が動く～
	2回目	8月5日㈯	佐野良吉先生（郷土史研究家）	十日町の大火始末記 ～焦土から立ち上がる～
	3回目	8月19日㈯	須藤重夫先生（郷土史研究家）	日本の大地震と郷土の人々 ～大地が震える～

申込み・問合せ＝博物館（☎757－5531）

GUIDE スポーツ

ソフトバレーボール大会

●**日時**＝8月6日㈰午前8時30

夏本番！市内のプールを開放します

施設名	開設期間	開場時間	定休日	使用料	問合せ
市民プール	7月22日(土)～8月27日(日)	午前9時～午後6時（8月13日以降は午後5時まで）	毎週火曜日	一般・高校生200円、小・中学生100円、幼児50円	752-0737
松代プール	7月23日(日)～8月31日(木)	午前9時～午後5時	なし	一般・高校生200円、小・中学生100円、幼児無料	597-3607
室野プール					598-2715
蒲生プール	7月23日(日)～8月31日(木)				597-3273
松之山プール	7月24日(月)～8月31日(木)	午前10時～午後5時		一般・高校生50円、小・中学生・幼児30円	596-2194

分～●**会場**＝十日町総合体育館●**種目**＝①女性の部②男女混合の部●**参加資格**＝市内に在住または在勤の人●**参加費**＝1チーム2、000円●**申込み・問合せ**＝7月28日(金)までに所定の用紙に記入しバレーボール協会田川（☎090―3645―4200）

小出養護学校公開講座

障害のある子どもたちの支援を考える公開講座を行います。特別支援教育に関心のある皆さんの参加をお待ちしています。●**日時**＝8月4日(金)午前9時30分～午後4時●**会場**＝県立小出養護学校（魚沼市）●**申込み・問合せ**＝7月21日(金)までに県立小出養護学校（☎025―792―5412）

GUIDE 福祉健保

保育士登録はお済みですか

現在保育所などで保育士として業務を行っている人は、11月28日までに保育士登録をする必要があります。また、今後保育士として業務を行おうとする人も、業務に就く前に登録をしなければなりません。登録手続きには3か月程度かかります。※登録をしなくても保育士の資格を失うことはありません。●**問合せ**＝県児童家庭課少子化対策・保育係（☎025―280―5215）

「ダメ。ゼッタイ。」は薬物乱用防止の合言葉

薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が7月19日(水)まで実施されています。若者たちを中心に世界中で急増している麻薬や覚せい剤の乱用。薬物は、乱用者の心や体をむしばむばかりでなく、家庭の崩壊や悲惨な事件の原因になっています。社会が一丸となって薬物乱用の撲滅を目指しましょう。●**問合せ**＝健康支援課地域医療係（内線128）

GUIDE 募集

自衛官募集

●**試験の種類**＝①航空学生②一般曹候補学生③曹候補士④2等陸・海・空士（女子）⑤2等陸・海・空士（男子）●**受付期間**＝①②③④8月1日(火)～9月8日(金)⑤随時受付●**受験資格**＝①高卒（見込み含）・21歳未満の人②18歳以上24歳未満の人③④⑤18歳以上27歳未満の人●**試験日**＝①9月23日（秋分の日）②③9月16日(土)④9月24日(日)か25日(月)⑤受付後指定●**問合せ**＝防衛庁自衛隊新潟地方連絡部長岡出張所（☎0258―33―0256）

新潟国際ビジネスメッセ2006出展募集

広分野で経営の効率化・事業の高度化などのビジネス提案をする企業の出展募集です。●**会期**＝11月16日(木)・17日(金)●**会場**＝新潟市産業振興センター●**募集規模**＝150小間●**出展料**＝10万5、000円／1小間（3m×3m）●**申込み・問合せ**＝8月25日(金)までに新潟国際ビジネスメッセ実行委員会事務局（☎025―230―8595）

点訳ボランティア募集

点字は目の不自由な人が触って読む文字で、点訳は文字を点字に置き換えることです。根気のいる作業ですが、やりがいはあります。いっしょに勉強しませんか。●**問合せ**＝明窓会関口（☎757―5099）

清津山の会富士登山参加者募集

富士山頂でご来光を望む登山です。●**日時**＝7月29日(土)～30日(日)（29日早朝中里総合センター集合）●**参加費**＝24、000円●**申込み・問合せ**＝7月15日(土)までに鈴木（☎756―2106）

GUIDE 年金

児童手当の現況届を提出してください

児童手当現況届の提出期限は6月30日(金)です。まだ提出していない受給者は早急に提出してください。●**提出場所**＝保険年金課または各支所市民生活課●**持参するもの**＝児童手当現況届、印鑑、年金加入証明または健康保険被保険者証などの写し（国民年金加入者は不要）※代理人でも手続き可（受給者本人の印鑑を持参）●**問合せ**＝保険年金課年金係（内線167）

平成18年6月長雨土砂災害救援金の受付

●**振込の場合**　郵便振替　0110-6-410021
口座名義　日本赤十字社沖縄県支部
※振込用紙の通信欄に必ず「平成18年6月長雨土砂災害義援金」と明記してください。郵便局窓口での取扱いの場合は、振込手数料は免除されます。
●**現金での受付**　市社会福祉協議会内の日本赤十字社十日町地区までお届けください
●**問合せ**：日本赤十字社十日町地区　☎750-5010

GUIDE その他

毎月勤労統計調査特別調査にご協力を

厚生労働省では、7月末現在で常用労働者を1～4人雇用する事業所を対象に、毎月勤労統計特別調査を行います。この調査は、賃金や労働時間、労働者数の動向を都道府県別に明らかにすることを目的とし、調査結果は統計を作るためのみに使用します。7月下旬から8月末まで調査員がうかがいますので、ご協力をお願いします。●**調査対象地域**＝十日町市島・高田町3西●**問合せ**＝県統計課（☎025―285―5511）

寄付ありがとう

6月25日届出分まで（敬称略）

●**情報館へ**＝大津秀男（山本町5）庭野勇吉（高田町3西）入田聖名子（学校町1）野沢恒雄（上町）小林正夫（旭ヶ丘）吉川剛尚（下川手）庭野克子（十日町赤倉）村越敬太郎（野口）
●**博物館へ**＝春日英昭（高田町4）大熊達義（春日町3）阿部守太郎（川治上町）樋熊キヨ（下町）庭野恭一（焼野）井口カノ（天池）

家屋廃材・運搬・処分費の無料期限が迫っています

中越地震で半壊以上の被災認定を受けた住宅の、解体・修繕に係る廃材運搬費及び処分費を無料とする事業の期限は11月30日(木)です。該当する住宅の工事を予定している所有者は、期限に間に合うよう手続きをお願いします。なお、手続きには承認申請が必要なので、運搬指定業者または建築業者を通して申請してください。●**問合せ**＝環境衛生課（☎752―3924）

震度情報に「十日町市高山」が追加されました

6月20日(火)から、十日町市高山（南中学校グラウンド内）の強震観測施設が新たな震度観測点として、気象庁の発表する震度情報に加わることになりました。●**問合せ**＝防災安全課防災安全係（内線172）

夏の交通事故防止運動が始まります

夏を迎え、開放感から来る無謀運転や飲酒運転、夏休みを利用した家族旅行など長距離運転による疲労運転を原因とする交通事故の防止を呼びかけます。●**運動期間**＝7月22日(土)～31日(月)●**問合せ**＝市民生活課生活環境係（内線151）

コイヘルペスウイルス病（KHV）のまん延防止にご協力ください

コイヘルペスウイルス病により死んだコイが発見され、マスコミなどでも風評被害に配慮しながら報道されています。人体への感染の心配はありませんが、市内での発生・まん延防止のため、コイの移動や取扱いにご協力をお願いします。

・信濃川など河川湖沼で釣ったコイを持ち帰って池や川に放さない
・コイの移動を自粛する
・死んだコイは焼却または埋却する。河川湖沼に捨てない
・コイの購入などの際は安全性を確かめる

◆問合せ：農林課農業振興係　内線248
または各支所農林課

不法滞在の外国人を雇用すると処罰されることがあります

来日外国人を雇用・就労させる場合、旅券（パスポート）や外国人登録証明書などで在留期間や在留資格を確認してください。短期滞在など就労資格のない来日外国人や不法滞在の外国人を雇用・就労させた場合、3年以下の懲役もしくは300万円以下の罰金が適用されます。●**問合せ**＝十日町警察署（☎752―0110）

あちこちだね

▼第3回大地の芸術祭が2週間後に迫りました。今回も見てて面白いという「感覚」とけったいでなにがなんだかワカラナイ「出会い」を楽しみたいと思います。一度見たら忘れられない。そんな作品との出会いが、今後、何かのきっかけになればいいですね。個人的に大地の芸術祭で一番好きな作品は第1回大地の芸術祭で、ゆくら妻有の傍らに展示されたクリスチャン・ボルタンスキー氏の作品「リネン」です。私にとって、この6年間、大地の芸術祭といえば、あのシャツがずらりと並んだ光景を思い出してしまうぐらいのインパクトがありました。

（南）

▼「唄っていると、歌詞や曲から、娘さんが機織りをしている姿や雪国の暮らしを思い浮かべます。美しい唄です」第25回十日町小唄日本一優勝大会で総合優勝した草野さんは、感無量の面持ちで話しました。昭和57年第1回優勝者の金沢幹枝さんは、「機織り仕事の傍ら、三味線の代わりに機織りのガチャガチャの音で練習して1か月、家族に内緒で応募しました」と後の「十日町小唄物語」に寄せています。審査委員長の小澤祐水さんは講評で、「歌の心を語っていただけば聞く人に伝わります」とアドバイスを添えました。作曲を手がけた中山晋平先生は、地元芸者衆の言葉から「テモサッテモ　ソジャナイカ」の囃しを考えて織り込んだと同誌は記しています。聞けば聞くほど味わいある、情緒豊かな雪国越後を代表する唄です。

（鈴）

■発行/十日町市役所　〒948-8501 新潟県十日町市千歳町3丁目3番地　TEL.025-757-3111　FAX.752-4635
E-mail info@city.tokamachi.niigata.jp　URL http://www.city.tokamachi.niigata.jp　■編集/総務課広報広聴係

ジュニア芸術祭 2

貝野小学校

「うんどうかい がんばるぞ！」

村山　凜さん（1年）

がっこうのうんどうかいでリレーをしているところです。バトンをもって、いっしょうけんめいはしりました。あかぐみがかって、とってもうれしかったです。

「たいひをまいたよ」

村山綾花さん（2年）

おじいちゃんたちに教えてもらって、学校の畑にトウモロコシやトマトなどの野菜の苗を植えました。たいひをバケツに入れてみんなでまきました。おいしく育ってね。

「がんばれ！白組」

羽鳥日香里さん（3年）

折り紙でせんすにしたりビニールテープを束ねてボンボンにしたりして、本当のおうえんみたいに工夫しました。おうえん合戦で勝ててうれしかったです。

「未来の自分」

井ノ川　誠さん（4年）

貝野イーグルスで、ぼくがキャッチャーをしているところです。ヘルメットやプロテクターにアルミホイルをはって目立たせました。将来は野球の選手になりたいです。

「友だちとスーパータッグ」

羽鳥悠太郎さん（5年）

学校でスーパードッヂボールをやっています。相手のチームを小さく描いたり、床板の遠いほうを細くしたりして工夫しました。ボールは6年生からのプレゼントです。

「くるくるフラワー風船」

保坂英理佳さん（6年）

カラーはりがねで、5つの風船を組み合わせたお花にしました。指でまげて丸くするのが大変でした。虹のように色を混ぜて、空に飛び立ちそうな感じにしました。

市民の動き

■人　口　62,971人（−27）　男　30,887人（−7）　女　32,084人（−20）
■世帯数　19,955世帯（＋10）　6月末現在（　）は前月からの増減